第５　農業近代化施設の整備計画

１　農業近代化施設の整備の方向

平坦で肥沃な農地や首都圏へ 90 ㎞圏内という立地条件を生かし、土地利用型園芸作物の導入などによる経営の更なる高度化の実現と、安心安全な農産物の安定供給や高付加価値化による経営基盤の安定化に向けた支援を行う。さらに、転換作物の生産性向上を図るため、ICT（情報通信技術）活用等による生産コスト低減や、適地適作の多収性品種の普及推進と併せて、排水対策や適期防除等の基本技術を励行し、品質と収量の高位安定化による稼げる水田農業の実現を目指す。また、水稲作付けを組み入れない畑作物の連続した作付け体系を把握し水田の有効利用を推進するとともに高収益作物や麦・大豆の本作化を進める取組を支援して、定着と生産拡大を図っていく。

「産地づくりモデル事業」と連携した露地野菜の産地育成、大規模化に向けた機械化等を推進する。併せて、農地利用の最適化と担い手への農地の集積・集約を促進し、経営の大規模化による効率的な生産体制の確立を支援する。

○作目別方向

（ア）主食用米

コメ流通に関わるサプライチェーンであるＪＡグループをはじめ、関係機関が連携を図り、生産者や卸業者、実需者との意見交換を行うなど、業務用及び家庭用の需要を把握し、生産量の適正化を図る。

（イ）備蓄米

主食用米と一括管理でき、小規模生産農家にも重要な作物であることの位置付けをし、地域における稲作経営と水田の維持安定化を図る。

（ウ）飼料用米

ＪＡグループ等を介した飼料会社への供給ルートを生かし、本作化を推進する。フレコン・バラ出荷等に取り組み、流通コストを抑えて生産拡大を図るとともに、安定的な供給のため、複数年での契約とすべく活動を推進する。

また、飼料用米のわらを利用した耕畜連携について、国産粗飼料の需要が高まる中で、畜産の経営基盤の安定と収益性の向上を目指し、地域内等における利用供給体制を図る。

（エ）米粉用米

近年の健康や体調管理を目的に小麦製品を代替するグルテンフリーの食材として、米粉の需要が回復していることに加えて、輸入小麦の高騰による米粉需要の拡大を踏まえ、フレコン・バラ出荷等に取り組みながら流通コストを抑えて、米粉用米の段階的な生産拡大を図る。

（オ）新市場開拓用米

アジア地域等では和食の人気が高まっており、米の新たな需要が見込めることから、

生産コスト低減と多収技術を実証しながら、販売業者等と連携した取組を強化するとともに、水田リノベーション助成を呼び水とした生産拡大を図る。

（カ）WCS 用稲

自給飼料として有効であり、農地の有効利用も図れることから、畜産農家と耕種農家との連携を強化し、需要を喚起しつつさらなる生産拡大に努める。

（キ）加工用米

実需者との結び付きの拡大により、需要量を確保し、計画的な生産と円滑な流通が行われるよう安定化を図っていく。

（ク）麦、大豆、飼料作物

麦、大豆は需要に見合った品種の導入・転換を検討し、土づくりや排水対策などの取組を推進し、さらに収量の増加と品質の向上を図ることで面積拡大を目指す。

その中で、限られた水田の有効利用を行い、より多くの収益を確保するため、需要の増加が見込まれる作物を組み合わせ、高度な水田利用を図る二毛作の取組を推進する。

（ケ）そば、なたね

中山間地域等における地域活性化を担う作物であることから、適期収穫や適正な乾燥調製を促し、現行の状態を維持する。その中で、限られた水田を有効利用しながら、より多くの収益を確保するため、需要の増加が見込まれる作物を組み合わせて、水田を高度に利用する二毛作の取組を推進する。

（コ）高収益作物

加工用トマト、なす、ねぎ、たまねぎ、レタス、里芋、ほうれんそう、ばれいしょ、白菜、大根、スイートコーン、うど（株養成のみ）、枝豆、キャベツ、ブロッコリー、人参、かんしょの 17 品目を高収益作物、また、いちご・トマト・ハウスなす・メロン・春菊・にら・アスパラガス・レタス・花きの 9 品目を地域振興作物と位置付けし、園芸の産地でもある管内において園芸作物の生産拡大を図る。さらに水田の畑地化により、畑作物の本作化を推進する。

２　農業近代化施設整備計画

該当なし。

３　森林の整備その他林業の振興との関連

該当なし。